

**2023年度 事業報告書**  
**(2023年4月1日～2024年3月31日)**

**公益財団法人アサヒグループ財団**

## I. 事業の概況

合併初年度となる今年度は、アサヒグループ学術振興財団が「人と社会の未来を展望し、主として食、生活及び環境にかかわる科学と文化の研究の助成支援を行い、もってこの分野における学術研究の発展と、国民の生活文化の向上に寄与する」との目的に基づき実施していた研究助成活動を中心とする事業を引き継いだ。

同時に、芸術文化活動に対する助成支援並びに、芸術文化資産を活かしながら芸術文化創造の支援をするため、アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営等の文化事業を行った。

### 1. 学術研究助成事業

2023年度の研究助成は、1ヶ月間の公募期間と各部門での選考委員会での選考と理事会での承認を経て17件1,600万円実施した。

現在、2024年10月開催予定の研究結果報告会に向け、目下研究結果の取りまとめが進められているところである。

#### 【2023年度助成内訳】

件名	助 成			
	申請件数	助成件数	金額（千円）	
学術研究助成	食・生活部門	33	8	7,000
	環境・サステナビリティ部門	40	9	9,000
合 計		73	17	16,000

2024年度の研究助成は、昨年11月1日から11月30日までの1ヶ月間、財団Webサイトを通じて公募を実施し、本年2月に各部門毎に開催した選考委員会で、申請書を基に研究内容について厳正に審査、選考を行った。

その結果、本年3月6日開催の第2回理事会の承認を経て、答申通り2024年度研究助成を決定した。

#### 【2024年度助成内訳】

件名	助 成			
	申請件数	助成件数	金額（千円）	
学術研究助成	食・生活部門	41	8	7,000
	環境・サステナビリティ部門	54	9	9,000
合 計		95	17	16,000

### 2. 助成研究のサポート、社会発信

#### ① 研究報告会（2022年度助成者を対象）

会場参加とWEB参加を併用したハイブリット開催とした。

10/25 食・生活部門 （9名）

10/26 環境・サステナビリティ部門 （7名）

・選考委員の他、理事、評議員、監事も参加し、熱心な質疑が行われた。

② 研究紀要の作成

2021年度の学術研究助成の研究結果報告を研究紀要としてまとめ、2023年5月より財団Webサイトにて公開している。

### 3. 顕彰事業

2022年度より再開した顕彰事業は、対象者（過去5年研究助成授与者96名）に対し募集要項を送付し、9月1日～30日の間で申請を募った。結果4名の申請を受理した。

12月15日の選考委員会による選考で2名の候補者を選定、3月の理事会に答申し、2名の研究賞授賞者を決定した。

### 4. 芸術文化活動への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されている公益社団法人日本工芸会の活動に対して500千円の助成を行った。

第70回日本伝統工芸展 東京会場開催（2023年9月13日～9月25日まで、日本橋三越本店）、並びに同会東日本支部が開催する「第63回東日本伝統工芸展」を中心とする公益目的事業の活動費として、支援金を活用している。

### 5. 美術館運営部門

#### 「事業の趣旨」

当財団は、1996年からアサヒビール社より、「アサヒビール大山崎山荘美術館」の運営を委託されており、これに伴い、美術館運営事業を行っている。なお、2022年より同館は、アサヒグループジャパン社の所有となっている。

所蔵品・建物・自然環境という大山崎山荘美術館ならではの資源を活かし、広く芸術文化の拠点として、情報発信に努めている。

#### 「事業の総括」

アサヒグループとしての一層の活用を目指して、2023年7月1日より館名を「アサヒグループ大山崎山荘美術館」へ変更した。館名変更に伴い、京都新聞朝刊にて企画展（船木倭帆展）開催と併せて全面広告出稿を実施した。また、JR京都駅においてデジタルサイネージ出稿を実施し、中央改札口前大型ビジョン4面、地下通路8面への出稿と

なり、多くの方へ館名変更周知が図ることができた。

博物館法一部改正に伴い、2023年10月12日付にて「博物館登録申請」を行い、2024年1月15日付にて「博物館登録」となった。申請に際しては京都府教育委員会とも緊密に連携を行い、滞りなく申請、登録を行った。

コロナ禍で中断していた教育普及活動を再開した。本年度は職場体験学習として、京都市立美術工芸高等学校(4名)、立命館中学校(2名)の受入れを実施した。次年度は職場体験学習に加えて、大山崎町立小学校(2校)への出張授業プログラムを開始する予定であり、大山崎町と調整中である。

広報活動強化の一環として、館名変更を機に SNS に特化した情報発信を開始している。多くの経費投入は出来ず手の届く範囲での実施ではあるが、インスタグラムのフォロワー数上昇等、目に見える効果は出ている。来館者増に向けた効果的な広報活動に継続して取り組む。

各種費用が高騰している中、仕入れ業者からの値上げ要請、展覧会関連費用増加等、館運営のコストは増える一方となっている。安定した館運営に向け、船木倭帆展より変動制の入館料金設定へ移行した。企画展内容により、1100円～1300円の料金体系とした。喫茶部門もメニュー改定を実施し、適切な利益確保に努めた。

ミュージアムグッズ製作で業界随一の業績を誇る(株)Eastの支援を仰ぎ、船木倭帆展よりミュージアムショップ及びグッズを刷新した。来館者からは好評であり、一人当たり購入金額も以前と比較し130%強で推移しており、刷新効果は着実に出ている。商品ラインナップの見直し等を行いながら、魅力あるショップづくりを継続していく。

#### 【企画展について】

時期	企画展の名称
2023/1/21～2023/5/7	没後40年 黒田辰秋展 — 山本爲三郎コレクションより
2023/7/15～2023/12/3	受贈記念：没後10年 船木倭帆展
2023/12/16～2024/2/25	藤田嗣治 心の旅路をたどる—手紙と手しごとを手がかりに
2024/3/9～2024/5/12	加賀正太郎没後70年・ニッカウキスキー90周年記念 蘭花譜と大山崎山荘 — 大大阪時代を生きた男の情熱

(1) 企画展来館者状況 (※招待券等、無料来館者を含む)

	来館者数	目標来館者数		
黒田辰秋展	20,500人	18,700人	進捗率	109.6%
船木倭帆展	26,119人	26,500人	進捗率	98.6%
藤田嗣治展	17,974人	16,000人	進捗率	112.3%
蘭花譜展	14,329人	14,500人	進捗率	98.8%

(2) お客様アンケート集計結果

企画展毎のアンケート回収状況は1.5%~3.5%。各企画展に対する評価は総じて高くなっている。

船木展では、山手館における展示方法に対する評価が高く、船木作品に対するお客様の理解がより深まったのではないかと判断している。

藤田展では、手紙や小作品を通して藤田の足跡を辿る展示となったこともあり、改めて藤田嗣治という作家を再認識した、とのコメントが多く見られた。

蘭花譜展では作品自体への評価も高いが、加賀正太郎・大山崎山荘・ニッカウキスキー・アサヒビールといった関係性への理解が深まったとの意見が多く寄せられており、企画意図と合致したことは主催者側としては嬉しい結果となった。

常設展示への関心も高く、多くのモネ作品が鑑賞できることへの驚きと喜びの声も多く寄せられている。建物に対するコメントも多く寄せられており、大山崎山荘・安藤建築の魅力が再認識することとなった。

◆「没後40年 黒田辰秋展 ― 山本爲三郎コレクションより」

期間 2023年1月21日(土)~2023年5月7日(日)

来館者 20,500人(目標18,700人)

本展は、黒田のゆるぎない基礎が確立した20代前半の凝縮された時期に焦点を当てた企画内容とした。山本家から当館に寄贈され、開館以来当館所蔵品の軸となっている三國荘ゆかりの山本爲三郎コレクションを中心に所蔵品を一挙に公開し、名匠黒田辰秋の創作の原点に迫る企画となった。

関連イベントとして、作家森見登美彦氏と学芸員との座談会「森見登美彦先生と語る京都の青春、上加茂民藝協団」、講演会「漆工文化財の保存修理について ―アサヒビール大山崎山荘美術館所蔵作品の修理を終えて」を実施した。講演会では漆修復作業の実演なども行い、出席者の興味を惹く中身の濃い講演内容となった。

◆「受贈記念：没後10年 船木倭帆展」

期間 2023年7月15日(土)~2023年12月3日(日)

来館者 26,119 人(目標 26,500 人)

新しい館名として最初の展覧会となった本展は、2021 年 2 月に森田昭一郎氏（森田酒造株式会社 代表取締役）より、船木倭帆作品 105 点の寄贈を受けたことを記念して実施した。

コロナ禍により開催できずにいた開幕式を 3 年ぶりに実施でき、関係者を始め多くの出席者の中、華やかな開幕式となった。

猛暑により 7 月から 9 月の来館者数が伸びず、予算達成まであと一歩となったが、作品展示ではライティングに工夫を施すなど多くの試みを行った結果、「どの船木倭帆展より素晴らしい」等、多くの高評価を頂くことができた。

◆「藤田嗣治 心の旅路をたどる—手紙と手しごとを手がかりに」

期間 2023 年 12 月 16 日(土)～2024 年 2 月 25 日(日)

来館者 17,974 人(目標 16,000 人)

明治の日本から単身渡欧し、エコール・ド・パリの代表的な画家として活躍した藤田嗣治。本展では、藤田が親しい人々に送った手紙や、生涯を通じて作りつづけた「手しごと」ともいべき木工細工、妻のために遺した作品などを通じて、彼の人生とその心の旅路をたどる企画となった。

資料展示の関係もあり短い会期となったが、遠方からの藤田ファンの来館も多く、改めて藤田人気の根強さに気づかされる企画展となった。

1 月 28 日には藤田研究の第一人者である林洋子氏(兵庫県立美術館館長)による講演会「藤田嗣治 暮らしのなかの私的な創作—手紙、手しごと、室内を手がかりに」を開催。100 名近い参加者となった。講演では本展に対する過分なお褒めの言葉も頂くことができ、スタッフ一同大いに励まされた講演会となった。

◆「加賀正太郎没後 70 年・ニッカウキスキー90 周年記念 蘭花譜と大山崎山荘 —大大阪時代を生きた男の情熱」

期間 2024 年 3 月 9 日(土)～2024 年 5 月 12 日(日)

来館者 14,329 人(目標 14,500 人)

2024 年は、大山崎山荘を造った加賀正太郎(1888-1954)が 66 歳で没してから 70 年にあたる。また、加賀が設立に深く関わったニッカウキスキー創立から 90 年を迎える。本展では、加賀正太郎の足跡をたどるとともに、彼が後世に残した貴重な財産である大山

崎山荘と『蘭花譜』を広く紹介する。併せて、ニッカウヰスキー90周年記念コーナーを設置し、グループ企業の情報発信を行った。

関連イベントとして、講演会、蘭展示販売会、山荘で嗜むウヰスキーの夕べを開催。ウヰスキーの夕べでは、アサヒビール社よりウヰスキーアンバサダーを招き、加賀正太郎とニッカウヰスキーの関りなども含め、ウヰスキー文化の魅力を発信するイベントとなった。

## II. 2023年度 主な事業活動

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
2023			大山崎山荘美術館 春企画展	「没後 40 年黒田辰秋展-山本為三郎コレクションより」 (~5/7)
	4	12	2023 年度助成授与式・研究賞授賞式	アサヒ本社ビル3階会議室
	6	1	第1回理事会	2022年度事業報告他
	6	22	定時評議員会	2022年度事業報告の報告他
	7	15	大山崎山荘美術館 夏・秋企画展	「受贈記念：没後10年 船木倭帆展」 (~12/3)
	9	1	2024 年度研究賞申請	募集期間：9/1～9/30
	10	25	研究結果報告会	食・生活部門
	10	26	研究結果報告会	環境・サステナビリティ部門
	11	1	2024 年度研究助成公募	募集期間：11/1～11/30
	12	15	顕彰選考委員会	2024 年度研究賞
	12	16	大山崎山荘美術館 冬企画展	「藤田嗣治 心の旅路をたどる-手紙と手しごとを手がかりに」 (~2/25)
2024	2	2	助成選考委員会	環境・サステナビリティ部門
	2	5	助成選考委員会	食・生活部門
	3	6	第2回理事会	2024 年度事業計画他

## III. 処務の概要

### 1. 役員等に関する事項

#### 理事の異動

2023年4月1日

選任	清水	誠
選任	植松	光夫
選任	佐藤	隆一郎
選任	伏木	亨

#### 評議員の異動

2023年4月1日

選任 原島 俊  
 選任 石井 克枝  
 選任 清水 二郎

2023年6月16日

選任 海鋒 宏行 辞任 野村 和彦

2023年度末の現職役員、評議員及び選考委員は次の通り

役職名	氏名	担当職務	主な職業
代表理事	加賀美 昇	本法人代表	アサヒグループジャパン(株)顧問
業務執行理事	大西 隆宏	業務全般	財団常勤
理事	竹内 順一		東京藝術大学名誉教授
同	尾崎 正明		茨城県近代美術館館長
同	木下 直之		静岡県立美術館館長
同	建畠 哲		埼玉県立近代美術館館長・美術評論家
同	清水 誠		東京大学名誉教授
同	植松 光夫		埼玉県環境科学国際センター総長
同	佐藤 隆一郎		東京大学大学院特任教授
同	伏木 享		京都大学名誉教授・甲子園大学学長
監事	松田 隆次		弁護士
同	飯塚 昇		公認会計士
評議員	奥 正之		(株)三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
同	村上 仁志		三井住友信託銀行(株)名誉顧問
同	高嶋 達佳		(株)電通相談役
同	根津 公一		根津美術館館長
同	大林 剛郎		(株)大林組会長
同	原島 俊		崇城大学教授・大阪大学名誉教授
同	石井 克枝		千葉大学名誉教授
同	清水 二郎		アサヒビール(株)執行役員
同	海鋒 宏之		アサヒグループジャパン(株)常務執行役員
同	根来 智之		アサヒグループジャパン(株)執行役員
選考委員	今井 悦子		聖徳大学非常勤講師
同	小川 順		京都大学大学院教授
同	内田 浩二		東京大学大学院教授
同	神田 智正		アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株)顧問
同	尾崎 一隆		アサヒグループジャパン(株)理事
同	可知 直毅		東京都立大学特任教授
同	妹尾 啓史		東京大学大学院教授



同	窪川 かおる		帝京大学客員教授
同	伊坪 徳宏		早稲田大学教授
同	安原 貴臣		アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株)理事

## 2. 職員に関する事項

山本 和央 2023年4月1日 事務局長辞任  
 崎田 淳也 2023年4月1日 事務局長就任

## 3. 役員会等に関する事項

### (1) 理事会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2023-06-01	第1回理事会 ・2022年度事業報告及び計算書類等の承認の件 (旧 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団) ・法人名称変更に伴う諸規定内の法人名称変更の件 ・辞任に伴う評議員候補者の承認の件 ・定時評議員会の招集の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認
2024-03-06	第2回理事会 ・2024年度事業計画書及び収支予算書等承認の件 ・2024年度助成・選考委員会答申書の承認の件 ・2024年度アサヒグループ研究賞・選考委員会答申書の承認の件 ・選考委員の選任の件 ・「選考委員会規程」改定の承認の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

### (2) 評議員会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2023-06-22	定時評議員会 ・2022年度事業報告及び計算書類等の承認の件 (旧 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団) ・法人名称変更に伴う諸規定内の法人名称変更の件 ・辞任に伴う評議員選任の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

## 4. 許可、認可及び承認に関する事項

該当事項なし

## 5. 契約に関する事項

該当事項なし

## 6. 寄付に関する事項

寄付の目的	寄付者	申込金額	領収金額	受入年月日
財団運営資金	アサヒグループジャパン 株式会社	167,000,000 円	77,000,000 円	2023-04-28
			50,000,000 円	2023-07-03
			40,000,000 円	2023-08-31
2023年度寄付金総額		167,000,000 円	167,000,000 円	

## 7. 行政庁指示に関する事項

該当事項なし

## 8. その他重要事項

該当事項なし

### 附 属 明 細 書

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないため、作成せず。

2024年6月3日

公益財団法人アサヒグループ財団

以上